

東香里第二病院

(平成 27 年 4 月 24 日訪問)

平均在院日数 61.7 日 (平成 27 年 3 月 31 日)

積極的な取組など

- 携帯電話の持込ができるようになっていた。使用についてのルールが掲示されていた。
- 透析や身体合併症治療のための通院が必要な患者に対して、本院へ車での送迎を行っていた。
- 病室の前にあるネームプレートはカバーを上スライドすることで名前を確認できる。必要以上に患者個人の名前が人の目に触れることがないよう工夫がなされていた。

前回の訪問(平成 18 年 10 月)から

改善出されていたこと、改善されていなかったこと

- 前回、投書箱に入れられた意見への回答がなかった事について、精神科病棟内には掲示はなかった。

病院について

平成 27 年 3 月 1 日に、東香里病院(以下「本院」)にあった精神科病床 173 床の内の 123 床がこの病院に移った。現在入院している患者の多くは本院からの転院。本院に残る精神科 50 床は透析が必要な患者や急性期の患者に対応し、東香里第二病院には比較的症状が落ち着いている統合失調症の患者や認知症の患者で、身体合併症のある患者が多い。本院との役割分担として、この病院では訪問看護を担当している。そのため、この病院に外来通院をする患者はデイケアと訪問看護を利用する患者のみ。

意見箱・人権委員会

人権委員会の開催は月 1 回。構成は医師・看護師・作業療法士・PSW・臨床心理士。意見箱はデイルームにあった。紙と鉛筆があり、車椅子の患者も届く高さだった。事務員が回収し、回収したものを各部署に回す。職員によると、投書は少ないようだ。

面会

面会時間は平日 13:00~17:00、土日 10:00~17:00。病棟内に面会室があった。使用していない時は施錠されていた。患者に聞くと「面会はデイルームで行われることが多い」と話していた。

診察

診察は原則週 1 回。病棟内に診察室があった。患者によって診察室に行くことがしんどい場合は病室で行うこともある。常勤医師は 4 名、非常勤は 2 名で病棟担当制ではなく、個別に患者ごとの担当制。

外出

患者は日付、名前、外出時間、外出先、用件を届出に記入する。病棟を出るための扉は詰所内にあり、

職員はその扉近くにある表に患者氏名、外出時間等を記載することになっていた。

薬

デイルームで食事をする患者はデイルームで、病室で食事をする患者は病室で受け取る。眠前の薬は職員が訪室をして渡される。3 病棟では 2 割の患者が薬を自己管理しているとのことだった。

退院に向けた支援と市の自立支援協議会への参加

院内のケースカンファレンスは、医師、看護師、PSW、場合によって患者本人や家族、支援者も入って行う。社会資源についての冊子は、各病棟のデイルームに置かれていた。

PSW は訪問時 2 名だが、5 月 1 日から 3 名になる。患者ごとに個別担当となっていた。また、PSW は市の障害者自立支援協議会とプロジェクト会議に出席している。65 歳以上かつ 5 年以上入院の患者が対象のプロジェクトでは、この病院の PSW も自立支援協議会のメンバーとして 2 名 1 組で、市内の他病院に行き、退院だけにスポットを当てずに本人のニーズを聞き出す関わりをしているとのことだった。

金銭管理・売店

金銭管理料は 100 円/日。出金は詰所で用紙に書いて届出る。明細が欲しい場合は病院の事務所に連絡をすると発行される。床頭台に鍵付きロッカーがあった(無料)。鍵を失くした場合は弁償(2,000 円)する必要がある。鍵を失くしたらいけないという理由で鍵を持たない人もいた。売店の営業時間は 1 時間のみ。

病室

4 人部屋では病室ごとに洗面台があった。ベッドの間はロッカーで仕切られ、ロッカーの上には、仕切れるようにロールカーテンがあった。ベッドごとに鍵付きロッカー(無料)、ナースコール、コンセントが 2 口あった。生活必需品の充電は無料で、それ以外のは、電気使用料として 100 円/日を病院に支払う。

個室(1 日 8,640 円、10,800 円、27,000 円)は身体合併症のために点滴や酸素が必要な患者にも対応できる。1 病棟では 2 室、2 病棟では 4 室、3 病棟は 11 室あった。訪問時、2 病棟でも 3 病棟でも個室料金が高いとの理由で利用者はいなかった。2 病棟では退院が近い患者が 1 人で過ごす練習のために使うこともあるとのことだった。訪問時はいなかったが、点滴を抜いてしまう患者に対して時間を限定して身体拘束を行うこともあるとのことだった。

電話

詰所の向かいの個室に、カードと硬貨が使用できる緑色の公衆電話が設置されていた。携帯電話は病室や公衆電話のある部屋等で使用できる。

デイルーム

大きな窓があり、日差しに応じてカーテンを引くことができる。流し台やレンジ、車椅子の患者でも購

入しやすい低い位置にボタンがある自動販売機があった。ソファ、テーブル、椅子、テレビなどがあった。

詰所

1 病棟、2 病棟の詰所は、オープンカウンターではなくガラス張りになっていた。3 病棟はオープンカウンター式で、カウンター内にやかんがあり職員に頼めば、いつでもお茶が飲める。新聞と女性雑誌があった。

トイレ

1 病棟、2 病棟は男性トイレに小便器3つと個室3つ、女性トイレには個室が6つあった。全て洋式でウォシュレットが付いていた。洗面台は、車椅子の患者でも利用しやすいようになっていた。エアータオルで手を乾かせるようになっていた。

入浴

1 病棟・2 病棟では週2回、3 病棟では週3回。2 病棟・3 病棟は入浴日以外の日にはシャワー浴が可能。

洗濯

病棟ごとに洗濯機と乾燥機が各1台ずつだった。料金は、洗濯機が1回200円、乾燥機が30分100円。各病棟に外に洗濯物を干せるスペースがあった。1 病棟の患者は、ほぼ全員がリース服を着用、2 病棟と3 病棟には自分で洗濯する患者がいた。

掲示物

売店の時間、献立、オムツの料金表、作業療法プログラム、デイケアの案内、バスの時刻表、患者の権利と責務、カレンダー、患者の作品、そして、『退院についてのワーカー利用』の案内等が貼られていた。

1 病棟 閉鎖 男女 42 床 精神一般 15:1

車椅子利用者が7割以上、特殊疾患の加算がついている。訪問時の入院患者は61歳～90歳代で、任意入院25名、医療保護入院12名。

移転による変化などについては、病院側の説明によると、患者からは「病棟がきれいになって良かった」「以前の病棟が古いとはいえ、馴れているのでそのほうが良かった」との声があるとのこと。患者も職員も多くは東香里病院の病棟からこの病院の各病棟に移ってきたので、様子を見ながら対応している。退院先については、施設やグループホーム、家族のいる自宅と様々だが、施設の入所費用が入院費より高いこともあり、退院が進まないケースもある。

患者の声

「3年入院している。外に出かけたい、食堂に行きたい」「職員の言葉遣いは丁寧な人もいるし、そうではない人もいる」「病棟からほとんど外出しない。売店まで行くこともある」「お金は自分で管理していない。自己管理の人もいる」「病気や薬の説明をもらっていない。薬が合うかどうかは看護師も聞いてくれている」「退院についての話はないなあ」

2 病棟 開放 男女 42 床 精神療養

半数の患者がベッドで休んでいた。詰所にはその日勤務する病棟担当の看護師等の氏名が患者から見えるように掲示されていた。文字は大きくはなく、顔写真などはなかった。デイルームには人が多かった。看護師や車椅子の患者、年齢の若い患者が混じって、すごろく作りをしていた。

隔離室

2 床。トイレの周りには仕切りがあり、水洗は外からと中からの切り替えができる。室内から廊下にあるカレンダーと時計が見えた。看護師によると「2 病棟は療養病棟ということもあり、隔離室を利用した患者はまだいない。できるだけデイルームなどで対応するように配慮している」との説明だった。

患者の声

「職員の様子や言葉遣いはやさしい」「電話は使わない」「農園があるからそこに行っている」「病棟から出るのは売店に行く時だけ」「お金は詰所で管理してもらっている」「眠剤はベッドサイドで受け取る」「退院したい」「医師に『いつまで居る気や、ホテルやないで』と言われた。目の検査をしてほしい。新聞も読めない。2千円の老眼鏡がボロボロで、眼科に行きたいが、『行く必要ない』と言われた」「外に行きたい。前は売店があつて出られた。今は退屈している」「洗面は自動でお湯が出てくるが、洗面が浅いので床が水浸しになる。私は、水で顔を洗いたい」「寝たきりにならないように、デイルームに出ている」

3 病棟 閉鎖 男女 39 床 精神一般 15:1

初回入院の患者約10名、認知症の患者10名弱、平均年齢は60歳代、任意入院26名、医療保護10名。任意入院で開放処遇制限がある患者は1名。入院受け入れ病棟である。ここから退院する患者もいる。病気の認識が欠如している場合や自傷行為等がある患者の場合には、医療保護入院となる。現在、地域移行支援計画が立てられている患者は10名で、家族との信頼関係を取り戻すためうまく関わりたいと努力している。女性の病室が並んでいる中に男性の病室があった。男女でゾーンを分けていないとの説明だった。デイルームには人影はそれほど多くなく、病室で過ごしている患者が多かった。デイルームには地域の福祉サービス事業所の案内があった。

観察室

4床あり、詰所から直に扉で通じている。災害時や停電時の緊急電源があった。黄緑色のカーテンがあった。床には、転倒防止のために立つと詰所コールが鳴るマットが敷いてあった。痰を吸引する設備もあった。荷物を入れる棚は小さく、入りきらない場合には詰所にて無料で預かる。

患者の声

「他県にいる兄から、年4回の面会があった。今回は約1年入院している。退院先はあり、外出は自由ができる。担当の看護師がいる。携帯電話は使えるし、メールなら病室でもできる」「10日～15日くらい前に入院した。任意入院。病院には満足」「運動できないから足が弱って困る。毎日面会があって、外出して食事したりしている。OTは週4回くらい行っている」「デイルームは光がよく入り、見晴らしがよく、畑で働く人も見え、開放的な気持ちになる」「お金は床頭台の鍵付き引き出しを使って小銭を管理している」「ベッドに『医師・担当看護師・氏名・入院日』の書いた紙があるので、自分でタオルをかけて他の人に見られんようにしている」「小物はベッドの上で充電できる。パソコン等は100円払って詰所で充電してもらう」「足元がふらつくので、ベッドを降りた所にコールマットというやわらかいマットがある。そこに降りると夜でも看護師がやってきてトイレなど手伝ってくれる」「部屋で食事をとる時は、薬は部屋に持ってきてくれた」「診察は週1回診察室であり、急がされることはない。治療計画書は持っている。退院の目処も立っている」「外出は自由。治療方針が確立していないので不安。治療計画書は持っていない。不安が強いので外に出たくない。携帯の充電は詰所でしてくれる」

検討していただきたい事項

意見箱について

投書箱に入れられた意見への回答がなかったことについては、精神科の病棟内には掲示はなかった。(病院:意見箱からの意見とその回答は、これまでも施設内で大勢の方の目に触れる場所を検討し、そこに掲示してきた。今回新規開院するのに意見箱で投書いただいた掲示場所の設置検討が先送りになり、投書していただいた患者に不安を与えてしまいました。すぐにデイルームに掲示コーナーを設置しました。外来部門では回答を掲示板に貼り出し、患者にお知らせしています。)

車椅子利用者や足の不自由な患者に対する配慮を

(1) トイレの個室には車椅子が広々入る空間があるが、便座横の上げ下げができる手すりがないため、患者からは「危なくて使いづらい」という声があった。また「転ばないように便座に座るときや立ち上がり時につかまる横棒が欲しい」という患者の声もあった。車椅子用のトイレには、手すりは便器近くにはなく、離れた壁に付いていた。

(2) 全ての病棟において公衆電話の個室に車椅子が入る奥行きがなく、車椅子利用患者が介助等なしで公衆電話をかけることは難しい。現状では、誰かに電話番号を押してもらい、ドアを開けたまま廊下から通話するとのことだった。病院側によると「建築

業者の施工ミスでドアが閉まらない。今後、工夫してみる」とのことだった。(病院:個室トイレにおいて車椅子から便座までの移動困難な患者は個室トイレに設置しているナースコールの利用を呼び掛けている。さらに工夫ができるか検討します。車椅子利用患者が介助なしで公衆電話をかけることを希望された場合は、外来の公衆電話を案内する。またその事を文章等で掲示します。)

入浴について

2病棟では「風呂、何とかしてほしい。中は、団子状態。裸で立って、順番を待っている。湯船も浅いし、寝ないと浸かれない」との患者の声があった。

1病棟と2病棟では入浴回数が週に2回で患者からは「2日に1回入りたい」との声があった。(病院:患者のプライバシーへの配慮、余裕のある入浴時間の確保の指摘には、まったくその通りであり、今後も人員配置の見直しや、日々の業務調整を行い1回の入浴にかける時間の確保に努めていきます。また回数を希望される患者も含め、できるだけ患者の要望に沿うよう努力しており最低週2回は入浴していただくという案内しています。)

薬の説明について(2病棟)

「薬について十分な説明がないまま渡された。その後ジェネリックの薬で前と同じ効果がある薬と説明された。『同じ』と言われても、ずっと飲んでいる薬が違うことはわかる。眠れるけれど昼間しんどい」との患者の声があった。(病院:服用の際に説明が不十分であったという指摘には真摯に受け止め今後薬剤師による直接説明や薬剤情報の提供を進めていきます。)

職員の接遇について(2病棟)

患者から「職員から『寝られへんのか!情けない』と言われた」との声があった。(病院:これまでも院内で接遇向上を目標にかかげ外部講師を招き接遇の在り方を継続教育してきたが、今回の意見を真摯に受け止め更なる職員教育を徹底していきます。)

売店の営業時間について

売店の営業時間は14:00～15:00の1時間のみのみで、患者からは「時間が短い」という声が複数聞かれた。(病院:売店営業時間に関して売店利用の動向、患者の声をもとにもう1度検討していきます。)

精神保健福祉資料より(平成26.6.30時点)

159名の入院者のうち統合失調症群が90名(57%)、気分障害が28名(18%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が21名(13%)。入院形態は任意入院93名(58%)、医療保護入院66名(42%)。

在院期間は1年未満が70名(44%)、1年以上5年未満の患者が46名(29%)、5年以上10年未満の患者が11名(7%)、10年以上20年未満が15名(9%)、20年以上17名(11%)。